

# 『マハーヴァスツ』の授記思想

藤 村 隆 淳

菩薩の授記思想は、部派及び大乘の菩薩思想を考察する場合に、また仏伝構成上においてもきわめて重要な思想であることはいうまでもない。しかしながら、この思想に関する従来の研究は何故か *Dīpaṃkara* (然灯仏) 授記と *Maitreya* (弥勒菩薩) 授記が主になつていて、他の過去仏による授記はほとんど問題にされていなくと思われる。しかし、このような特定の授記思想だけではなく、他の多くの授記についても考察しなければならないであろう。そういう意味において、説出世部所伝の仏伝『マハーヴァスツ』には多くの過去仏と結合した数多の菩薩の授記思想が伝承されているが、*Dīpaṃkara* 仏授記の他は未だその個々の授記に関する研究は勿論、その概要も明らかにされていないと言える。本小論では、『マハーヴァスツ』所説の授記思想を抽出し、過去仏思想と関連させて若干の考察を行なうものである。

『マハーヴァスツ』に見られる授記思想と、特に授記に関係あると推測できる菩薩の誓願思想とを表示すれば、右の如くである。

『マハーヴァスツ』は冒頭に過去仏に対する帰依文を述べているが、その中に菩薩のなすべき四つの行 (*bodhisatva-caryā*) 即ち、一、自性行 (*prakṛti-caryā*) 二、願性行 (*praṇidhāna-caryā*) 三、隨性行 (*anuloma-caryā*) 四、不退転行 (*anivartana-caryā*) を挙げ、更に前生における釈尊が *Aparājitadhva* 仏のもとで善根を植えつづけるために *prakṛti-caryā* を行じ、*Śākyamuni* のもとでは誓願を發すための *praṇidhāna-caryā* をなし、*Samitāvin* のもとで *anuloma-caryā* を行じることにより、*Dīpaṃkara* によつて前の誓願に対する授記を受け、*anivartana-caryā* を行じたことを述べる。この記述は菩薩の所行を端的に示唆したもので、誓願と授記が基本となつてることが理解できる。『マハーヴァスツ』はこの四つの菩薩行の中、願性行の説明として左図の記号 A~V を説示している。この A~V に見られる過去仏を考える場合、これらの過去仏が如何なる伝承型態を示すか、また如何なる発展段階にあるかには問題があるが、『マハーヴァスツ』所見の過去百二十九仏の中にその大半の仏名を見出すことが出来る。

記号	過去仏名	前生(釈尊)	供養	誓願											
				a	b	c	d	e	f	g	h	i	他		
A	Aparājitadhvaḥ	Dr̥dhadhanu 転輪王	大衣で仏をおおい、塔を 建立。	1	2										
B	Śākyamuni	商人	粥を与える。			1									
C	Samitāvin	転輪王	衣・鉢等の資具を与え、 七宝所成の宮殿を与う。	4	5	1	2	3							
			百・千の宝所成の宮殿								2	1			
			梅檀所成の宮殿												1
D	Śākyamuni	転輪王													
E	Dīpaṅkara	転輪王													
F	Padmottara														
G	Pradyota														
H	Puṣpa														
I	Māradhvaḥ														
J	Padmottara														
K	Kāśyapa														
L	Pratāpa														
M	Kauṇḍiṇya														
N	Pratyeka														
O	Samantagupta														
P	Jambudhvaḥ														
Q	Indradhvaḥ														
R	Āditya														
S	特定の仏名欠														
T	Samitāvin														
W	Dīpaṅkara	Meghadatta バラモン青年	五本の蓮華を散華する。	5		1	2	3	4						
					1						2				
X	Kāśyapa	Jyotipāla バラモン青年	粥、金の椅子、布を与え 蓮華を散華する。	5		1	2	3	4						
											2	1			
Y	Maṅgala	Atula 竜王	衣服を与える。												1
Z	Sarvābhibhū	Abhiya 比丘	蓮華を散華	5		1	2	3	4						
					3						2	1			

授 記					Mahāvastu 頁・行	本生譚
a	b	c	d	他		
					Vol. 1. p. 60. ll. 12	○
					p. 47. ll. 12	○
					p. 48. ll. 17	○
					p. 57. ll. 7	
					p. 57. ll. 12	
					p. 57. ll. 16	
					p. 58. ll. 2	
					p. 58. ll. 3	
					p. 58. ll. 4	
					p. 58. ll. 6	
					p. 58. ll. 7	
					p. 58. ll. 8	
					p. 58. ll. 9	
					p. 58. ll. 10	
					p. 58. ll. 11	
					p. 58. ll. 12	
					p. 58. ll. 13	
					p. 58. ll. 14	
					p. 58. ll. 15	
					p. 58. ll. 16	
1				2	p. 193. ll. 13	○
	1				vol III. p. 317. ll. 4	○
		1			p. 248. ll. 6	○
1					p. 34. ll. 1	○
	1					

## (prañidhāna)

- (a) yasmim samaye satvā bhavensuḥ alenā atrānā aśaraṇā aparāyaṇā utsadalolā utsadadoṣā utsadamohā akuśalāndharmā samādāya vartensuḥ yobhūyena ca apāyapratipūrakā bhavensu tasmim kāle tasmim samaye ahamanuttarām samyaksambodhimbhisambudhyeham/
- (b) taṃ bhaveya bahujanahitāya bahujanasukhāya lokānukampāya mahato janakāyasyārthāya hitāya sukhāya devānām ca manuṣyānām ca/
- (c) evaṃ ahaṃ lokaṃ imaṃ careyaṃ/ yathā ayaṃ carati asaṃgamānaśo/ cakraṃ pravarteya ananyasādṛṣaṃ/ susatkṛtaṃ devamanuṣyapūjitaṃ/
- (d) aho punarahamanāgatamadhvānaṃ bhaveyaṃ tathāgato 'rhaṃ samyaksambuddho vidyācaraṇasaṃpannaḥ sugato lokavidanattaraḥ puruṣadamyasārattiḥ śāstā devānām ca manuṣyānaṃ ca/
- (e) dvātriṃśatīhi mahāpuruṣalakṣanehi samanvāgato aśītihi anuvyañjanehi upaśobhitaśarīro aṣṭādaśāveṇikehi buddhadharmehi samanvāgato daśahi tathāgatabalehi balavām caturhi vaiśārdyehi suviśārado/
- (f) anuttaraṃ dharmacakraṃ pravarteyaṃ/ evaṃ ca śrāvakaśaṃghaṃ parihareyaṃ/ evaṃ ca me te devā ca manuṣyā ca śrotavyaṃ śraddhātavyaṃ manyensuḥ/
- (g) evaṃ tīrṇo tārayeyaṃ mukto mocayeyaṃ āsvasto āsvāsayaṃ parinirvṛtto parinirvāpayeyaṃ/
- (h) arthaṃ careya loke devamanuṣyā daśeyaṃ dhamaṃ/ evaṃ vineya satvā yathā ayaṃ lokapradotyoto/

		弥勒の前生		a	b	c	d	e	f	g	h	i	他
U	Suprabhāsa	Vairocana 転輪王			3		1	2					
		不明 (前生)											
V	Ratna (Ratnavat)	転輪王											

記号	過去仏名	前生	誓願	頁・行
ア	Śākyamuni	Yaśavrata (商人の子)	○	Vol. 1. p. 111. l. 5
イ	Sudarśana	Dharaṇīmḍhara (転輪王)	○	p. 111. l. 13
ウ	Nareśvara	Aparājita (転輪王)	○	p. 112. l. 7
エ	Suprabha	Vijaya (大臣)	○	p. 112. l. 17
オ	Ratanaparvata	Acyuta (転輪王)	○	p. 113. l. 10
カ	Kanakaparvata	Pariyadarśana (転輪王)	○	Vol. 1. p. 114. l. 6
キ	Puṣpadanta	Durjaya (国王)	○	p. 115. l. 9
ク	Lalitavikrama	Caturaṅgabala (国王)	○	p. 116. l. 15
ケ	Mahāyaśa	Mrgapatisvara (国王)	○	p. 117. l. 12
コ	Ratanacūḍa	Maṇivisāna (転輪王)	○	p. 118. l. 1

(i) evaṃ ca śrunensu devamanuṣyā vākyam evaṃ ca dharmacakraṃ pravarteyam bahujanahitāya dharmolkāṃ prajvaleyam dharmabheriṃ sapatākāṃ ucchrpayeyam dharmaketuṃ dharmasamkhaṃ prapūrayeyam kṛcchrāpannaiḥ jātijarāpīḍitairmaraṇadharmaiḥ bhavacakṣukaiḥ prajñācakṣu niveseyyam/ sañjīve kālasūtesamghāte raurave avīcismim ṣatsu gatiṣu vikīrnām bhava-

a	b	c	d	他		
					p. 59. Ⅱ. 1	○
					p. 62. Ⅱ. 16	

saṃsārātparimocayeyaṃ narake pavvipakvā apāyanipīḍitā maraṇadharmāṃ alpasukhaduḥkhabahulāṃ bhavasasaṃsārātparimacayeyaṃ/

## (vyākaraṇa)

(a) bhaviṣyasi tvaṃ mānavam anāgatamadhvānaṃ aparimite asaṃkhyeya

kalpe śākyānāṃ kapilavastusmiṃ nagare śākyamunirnāma tathāgato 'haṃ samyaksambuddho vidyācaraṇa saṃpannaḥ sugato lokavidanuttaraḥ puruṣadamyasāratiḥ śāstā devānāṃ ca manuṣyāṇāṃ ca yathāpyaham etarhiṃ dvātriṃsatīhi mahāpuruṣalakṣaṇehi samanvāgato aśītihi anuvarjanehi upasobhitaśarīro aṣṭādaśehi āveṇikehi buddhadharmehi samanvāgato daśahi tathāgatabalehi balavāṃ caturhi vaiśāradyehi suviśārado evaṃ tīrṇo tārayiṣyasi mukto mocayiṣyasi āsvasto āśvāsaiṣyasi parinirvṛto parinirvāpayiṣyasi yathāpi ahaṃ etarhi/evaṃ cānuttaraṃ dharmakṛaṃ pravartayiṣyasi/evaṃ ca samagraṃ śrāvakaśaṃghaṃ parihariṣyasi/evaṃ ca de vamanuṣyā śrotavyaṃ śraddhātavyaṃ maṇiṣyanti/yathāpi ahaṃ etarhiṃ bha viṣyasi bahujaṇahitāya bahujaṇasukhāya lokānukampāya mahato janakāya yārthāya hitāya sukhāya devānāṃ ca manuṣyāṇāṃ ca/

(b) buddho tvaṃ bheṣyasi……anāgate aparimitasmiṃ kalpe/kapilāhūye ṛṣibhavanasiṃ śākiyo tadā tvaṃ pi praṇidhivipākameṣyasi/

(c) buddho tvaṃ hohisi lokanāyako anāgate imasmiṃ bhadrakalpe/kapilāhūye ṛṣivadanasmiṃ śākiyo tadā tava praṇidhivipāko bheṣyati/

(d) tvaṃ anāgatādhvāne aparimite asaṃkhye loke śākyamunirnāma tathāgato 'rhaṃ samyaksambuddho/

しかもこれらの過去仏は、Buddhavaṃsa, Jātakanidānakathā, Apadāna 等に伝承されている過去二十四仏の第一番目に相当する Dīpaṃkara 仏を基点にすれば、いずれも Dīpaṃkara 仏以前の過去仏であろうと断定あるいは推定しうる点で共通している。次に、これらの中、本生譚を述べるものは A・B・C の三者だけで、そこに見られる誓願内容は A では a・b, B は c, C では五回の誓願が発せられているが、表の如く二回は内容が欠如している。記号 D~T は単に“abhiññāmi ahaṃ……”と記されるだけで誓願の内容そのものも全く見られない。また、記号 U は弥勒の前生である Vairacana なる転輪王の誓願であり、V は何れの前生か不詳であるが、D~T と同じく誓願を予想するものである。

次に記号 W~Z について考えてみよう。記号 W の本生譚に関して、『マハーヴェツ』は最初に Dīpaṃkara 仏の本生を詳述しているが、本論では父の名が

Arcimat, 母は Sudīpa. 都は Dīpavatī であつたことだけを記すにとどめておく。続いて Meghadatta 青年の本生譚が見られるが、その出生等には記述が欠け、単に Prakṛti という少女との因縁を語り、Prakṛti から五本の蓮華を求め、それをもつて Dīpaṃkara 仏を散華供養し、d・e・f・g・h の誓願を發す。これに対し Dīpaṃkara は a の記を授け、同時に “taṃ hitasukhāya kāhasi sabrahm-asurāsurasya lokasya/ hāyīṣyanti apāya narakā maru saṃvivardhanti//” と授記する。次いで Meghadatta は第二の誓願 c と h を發して、仏より “buddho turam̐ bheṣyasi meghe mānava anāgate aparimitasmim kalpe/ kapilāhūye ṛṣibhavanasmim śākiyo tadā tvam̐ pi praṇidhivipākameṣyasi//” と授記を受ける。記号 X は Kāśyapa 仏が Jyotipāla 青年に授記するものであるが、『マハーヴェスツ』は “Jyotipāla-sūtra” と “Jyotipālasya vyākaraṇa” にわかれ、前者において Kāśyapa 仏と Ghaṭikāra (陶師) と Jyotipāla 青年の因縁譚が述べられる。後者においては Jyotipāla と Kāśyapa の誓願と授記が見られ、左図の如く、d・e・f・g・b の誓願に対して a の記を受け、次に i・h の誓願を發して c の授記を受ける。記号 Y の Maṅgala 仏授記では『マハーヴェスツ』はまず Maṅgala 仏の出生、家系等の系譜を次の如く記載している。父は Sundara, 母は Śirī, 都城は Uttara, 人寿百千俱胝, 百千俱胝・九十俱胝・八十俱胝の三つの弟子僧伽を有し、Sudeva と Dharmadeva の二人の比丘及び Śivālī と Aśokā の二人の比丘尼を弟子とし、菩提樹は Nāga 樹であつたと。Atula 竜王の起こした誓願の内容は欠けており、単に “tato mayā so bhagavāṃ maṅgalo saśrāvaka-saṃgho……satkṛtvā gurukṛtvā mānayatvā pūjayitvā duṣyayugamāchādaṃ dattvā bodhāya anupraṇihitaṃ” と記述されているだけである。これに対して Maṅgala は “tvamanāgatādhvāne aparimite asaṃkhyeye kalpe śākya-munirnāma tathāgato 'rham̐ samyaksambuddho” と授記する。『マハーヴェスツ』は未来時における Atula 竜王の出生、系譜等について父 Śuddhodana, 母 Māyā, 都市 Kapilavastu, Kolita と Upatiya の二人の比丘及び Kśemā と Utpalavarṇā の二比丘尼を弟子とし、菩提樹は Aśvattha, 隨待者 Ānanda と記している。記号 Z では Abhiya 比丘, Nanda 比丘, Uttiya 商人とその娘の四人の因縁譚が述べられるがその詳細は略する。Abhiya 比丘は二人の香料商人 (目連・舍利弗) から蓮華を買いて求め、それをもつて Sarvābhibhū 仏を供養し、菩提を求めんために d・e・f・g・h の誓願を發し、a の如く授記され、次いで i・h・c を誓願し、b の記を授けられる。これら四者本生譚には仏に対する供養、誓願、

授記の内容が一同に伝承されている。また、これらの過去仏名は前述の過去二十四仏に照合すれば、Dīpaṃkara 仏が第一番目、Kāśyapa 仏が第二十四、Maṅgala 仏が三番目であり、Sarvābhīhū 仏は過去十五仏系譜の第二番目に相当する。このことは『マハーヴァスツ』所説の過去百二十九仏においても、四仏はいずれも Dīpaṃkara 仏以降の過去仏であつたことが容易に理解される。ただ、過去百二十九仏の系譜中には Maṅgala 仏の名前が見出しえないが、『マハーヴァスツ』本文中に “bhadrakalpāto aparimite aprameya asaṃkheyeya loke dīpaṃkarāto anantaraṃ maṅgalo nāma tathāgato……” とある点からして Maṅgala 仏もやはり Dīpaṃkara 以降の過去仏であると把握できる。この W～Z の本生譚中、過去仏の本生を記述するのは記号 W と Y で、釈尊の前生の本生を記しているのは W・X・Y で、授記内容の中に、未来時における出生、家系等の系譜を述べるのは Y のみである。また、誓願と授記内容は右図でも明らかな如く、W・X・Z の三者は全く等しい内容を有しており、Y ではほとんど誓願・授記には触れていないが、W・X・Z の三者と同内容であつたと予測することが出来る。

次に記号 A～C は十地の思想中の、第五地に進んだ菩薩の所行を述べる段で、Kātyāyana が Kāśyapa に対して教示する譚で、左図の如く各々の過去仏のもとで善業を積集し、未来世に対する誓願を語る部分に見られる。これら十種の本生譚もやはり授記思想を予想した誓願思想の反映であると思われるが、詳しくは後の機会にゆずることとする。

以上のように『マハーヴァスツ』所見の授記思想とその関連思想である誓願思想について考察してきたが、結論として、過去仏名、思想内容等からきわめてはつきりと次の三つに分類できる。第一は記号 A～T 及び Y・Z で、ここに見られる過去仏は Dīpaṃkara 仏以前のものと推定することが可能であり、内容的には誓願に重点を置きながらも、授記を予想した菩薩の誓願思想であると言える。第二は記号 U～X で、過去仏は Dīpaṃkara 仏以降の仏名で、内容的には仏に対する供養・誓願・授記が融合した授記思想の形式を有し、そこには大乘菩薩の理念たる上求菩提下化衆生の精神を含んだものといえる。第三は十地の中に見られた記号 A～C で、ここに見られる過去仏名は第一、第二のグループ以外の名称と考えられるが、思想的には第一グループと同じく誓願思想であることが端的に理解できる。このように『マハーヴァスツ』所説の授記思想は、過去仏思想と誓願思想が融合し、両思想が大きく関与しあつていることが明らかである。（註略）